

# 大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

※特集

変わる大学、変わる学び

— 新型コロナウイルスの衝撃

中村正史 1

危機のなかの大学

— 浮き彫りになる課題と未来への展望

吉田 罍 6

オンライン教育のこれから

— 変わる方法、変わらない思い

田中駿介 12

五〇年後の大学解体

— コロナ禍が顕在化させた「大学のネオリベ化」

田中直哉 18

コロナ禍の大学生協

大学出版部ニュース 22

No. 124  
2020.11  
秋



一般社団法人  
大学出版部協会

大学出版部協会 新刊ご案内

ブックレット第4弾

# 対立を乗り越える 心の実践

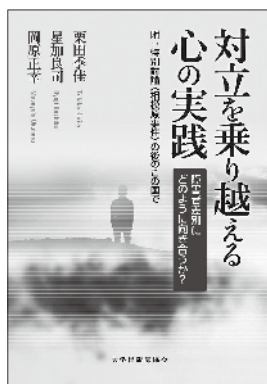
## 障害者差別にどのように向き合うか？

栗田季佳・星加良司・岡原正幸

大勢の障害者の命が奪われた〈相模原事件〉を起す影は、私たちの内にある。制度や「ねばならない」的教導では、差別はなくなるならない。「潜在化する偏見」を炙りだし、その原因となる心のメカニズムと社会的背景にまで遡って考察することで、差別解消への糸口を考える。

[発行：大学出版部協会／発売：東京大学出版会]

ISBN978-4-13-003153-0 2017年2月刊行  
A5判／88頁／本体1,000円＋税



### 主要 目次

- 第1章 見えない偏見  
障害者を取り巻く問題に現れる心の動き (栗田季佳)
- 第2章 バリアフリーという挑戦  
「社会を変える」ことは可能か (星加良司)
- 第3章 生の問題として〈対立を乗り越える〉を考える (岡原正幸)
- 第4章 討論  
対立を乗り越える学問の挑戦 (栗田季佳・星加良司・岡原正幸)
- 第5章 特別討論〈相模原事件〉の後のこの国で  
有事モード下の差別と偏見

特集\*変わる大学、変わる学び——新型コロナの衝撃

## 危機のなかの大学——浮き彫りになる課題と未来への展望

中村正史 (朝日新聞社 教育総合本部 教育コーディネーター)

### 大学が直面する三つの危機

危機に陥った時に、その組織の本質や正体がわかる。本当は何を大切にしているのか、困難に対処する覚悟と能力があるのが、白日の下にさらされる。これが今年二月以降、コロナ禍の各大学の対応を見てきた感想である。

私は受験生や父母には、一連の対応をよく見て（大学のホームページに情報や学長らのメッセージが上がるので）、大学・学部選びをするのがいいと言っている。

日本の大学は、この春以降、未曾有の危機に直面している。まず、この危機感を持っている教職員が、その大学にどれくらいいるのかどうか。危機は三つある。

一つは、対面授業ができない、あるいは対面授業を再開してもいつ中断されるかわからないこと。オンライン授業については後述するが、この原稿を書いている九月半ばの

時点で、オンライン授業か対面授業かをめぐって、教員同士、学生・父母と大学との間で亀裂が入っているのは、悲しいことである。ずっと全面オンラインでいいと思っっている大学教員は恐らくいない。新型コロナウイルスの感染状況をしながら、手探りで柔軟に対処するほかない。まさに大学執行部の哲学と手腕が問われる。

二つ目は、授業料を払えない、生活できない学生・留学生が出ていること。学生のアルバイトが減っただけでなく、親が失業したり自営業を閉じたりして仕送りができなくなっている。

立命館大学新聞社が行った学生生活実態調査（八月）で、秋学期以降の休学を考えている学生が約二五%、退学を検討している学生が約一〇%いるという結果が衝撃を与えた。経済的な面だけでなく、キャンパスに入らず、自室からオンライン授業を受けるだけなら、都会に出て来た意味がな

いと考える自宅外生もいるだろう。

三つ目は、入試ができるかどうかわからないことだ。年明けに新型コロナの感染が拡大したら、一月の共通テストや二月以降の個別入試が実施できない可能性がある。「入試ができればラッキーくらいに考えて覚悟している」(東京都内の私大幹部)と、数限りないシミュレーションをしているところがどれくらいあるのか。

さらに予備校や高校によれば、来年の入試では東京などの都市部の大学を避ける傾向が受験生の間に出ている。それだけでなく、今春、東京の大学に合格した学生が再受験して別の大学に移る動きもある。「都心部から郊外へ」という人の動きが、大学受験にも及ぶ可能性が高い。

私は七月から八月にかけて立命館アジア太平洋大学(APU)を取材したが、歴史に詳しい出口治明学長に言わせれば、ウィズコロナとアフターコロナは、時間軸を分けて考えなければならぬ。新型コロナはいつまでも続くわけではない。ワクチンや治療薬ができれば、インフルエンザ並みになる。「当面はステイホームと、マスク・手洗い・ソーシャルディスタンスの三点セットで出かけるニューノーマルを行ったり来たりする」と出口氏は言う。

上記の三つの危機も、時間軸を分けて考えるのがよい。ただし、アフターコロナになっても、コロナ前の景色には戻らないだろう。コロナによって気づかされたことや、これまで当たり前だと思っていたことへの素朴な疑問が生じ

たからだ。新型コロナは日本の大学のあり方についても、パンドラの箱を開けてしまった部分がある。

### オンライン授業の現状と課題

さて、本題のオンライン授業と大学教育について、である。

結論を先に言えば、オンライン授業か対面授業かは本質的な問題ではない。それまで学生にきちんと向き合って教えてきた教員は、オンライン授業もうまい。学生のオンライン授業への評価も高いし、学習意欲はむしろ増している。オンライン授業の評価が低い教員は、よほどのIT音痴か、もともと授業がうまくなかったかに違いない。

そもそも、オンライン授業と対面授業は別物だと意識して、九〇分の授業を組み立て直している教員と、大学のLMS上に教材を置いて課題を出すだけで、何もレスポンスしない教員の授業を、同じオンライン授業の枠組みで議論すること自体に無理がある。問われるべきは、オンラインか対面授業かではない。非常時に、学生の学びを止めないためにどうするのか、学生にどう向き合うかという本質的な姿勢であると思う。

オンライン授業について考える上で示唆を与えてくれる調査結果がいくつか出ている。

一つは、立命館大学新聞社が八月に学部生に対して行った「秋学期の授業に向けたアンケート」調査である。秋学

期で最も希望する授業形態は、全面ウェブ三四%、全面対面二七%、併用三五%。学年別では、一年生は全面対面が最も多いが、二年生と四年生は全面ウェブ、三年生は併用が最も多い。学生は必ずしも全面対面授業を望んでいるのではなく、オンライン授業の利点も感じている。「秋学期が全面対面授業となれば受け入れられますか」という質問に対して、「はい」と答えた一年生は七〇%だが、二年生以上は五〇%前後にとどまっている。

もう一つは立教大学経営学部が一、二年生に対して七月に行った「オンライン授業に関する学生の意識調査」である。オンライン授業の形態別に満足度を調査しており、一年生の満足層の割合は、双方向リアルタイム・対話形式七四%、一方方向のリアルタイム動画配信三五%、一方方向の録画動画配信四三%、課題のみを提示二二%となっている。「オンライン授業」とひとくくりにされるが、形態によってこれだけの差がある。双方向性をいかに持たせるかがポイントである。

興味深いのは、双方向型オンライン授業の満足度は昨年の対面授業を上回っていること、大規模型(百人以上)や一方方向型の授業はオンライン授業の継続を望む割合が高いこと、さらに教育効果(学習目標の到達度、全問正解率)は昨年より高いことだ。

時間軸という観点から、少しさかのぼってみたい。私が知る限り、学事曆通りに四月初めからオンラインで授業を開始したのは、国際基督教大学(ICU)、立教大学経営学部、名古屋商科大学、そして情報基盤センターが主体的に動いた東大だった。

ICUの岩切正一郎学長は、昨年秋季に香港で学生と警察が衝突した時に、大学の授業はオンラインで行われていたことを、香港に留学していたICUの学生から聞いて、「危機の時はオンラインが有効だと思っていた」と私の取材に語った。立教大学経営学部の山口和範学部長は、二〇一一年の東日本大震災の時も学部長で、当時、学生が戻って来られないだろうと授業開始を一カ月延ばしたことをずっと

まだまだ  
重版続々!  
好評発売中

# 「空気」を読んでも 従わない

鴻上尚史

生き苦しさからラクになる  
.....  
どうしてこんなに周りの目が気になるの?  
どうして「空気」にすぐ流されるの? そんなあなたの  
生き苦しさのヒミツについて書きました。 本体800円



© Yuki Sugiura



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋  
(定価は表示価格+税)

<http://www.iwanami.co.jp/>

自問し、「九年前と同じことをしてはいけなさと強く思った」と語り、「大学設置基準には『有事の時に代替措置があるか』を入れるべきだ」と強調した。

オンライン授業がうまくいくには、いくつか条件がある。まず執行部の決断と問題意識。これが最も重要で、執行部の決断がなければ大学という組織は動き出さない。次にサポート体制を構築できているかどうか。大学によっては、執行部は「オンライン授業をしろ」と言うだけで、現場丸投げのところもあった。普段から教員同士、教員と職員のコミュニケーションが取れているか、T AやS Aを授業のサポートに機能的に生かしているかといったことも大きい。オンライン授業で見るべきなのは、その授業を作り出している組織の風土と教員の意識である。

もっともオンライン授業には負の部分があり、長引けば次第に顕在化する。教員は教材作りに膨大な時間を取られ、仕事量が増した。パソコンの画面に向かって一日に複数コマの授業をすれば、クタクタになる。教員同士の調整がなく、課題が出されるので、学生は課題をこなすのにアップアップだ。オンライン授業を受ける環境を確保するのに苦労する学生もいる。当面の間の辛抱だと思っていたのに、キャンパスに入れず、対面授業が再開されない。学生はしびれを切らしてしまった。特に今春入学した一年生は、せっかく合格した大学のキャンパスに一度も入っていない。友達とつながりたいのに、その機会すらない。

小中高は学校を再開しているのに、大学だけなぜできないのか。政府はG。T。O。キャンペーンもやっているじゃないか。学生に感染者が出た時の風評被害が怖いだけではないか。こういう素朴な疑問に、大学は丁寧に説明する必要がある。そうすれば納得はしなくても理解はしてくれる。憤りは抑制される。

### アフターコロナに向けて

出口氏の言い方を借りれば、今（九月半ば）はステイホームとニューノーマルを行ったり来たりしている時期である。秋学期の授業については、オンラインと対面を組み合わせ、演習、実験などはなるべく対面で行おうとしている大学が多い。ただ、感染状況次第で全面オンラインに戻ることもあるだろう。そして、やがてアフターコロナの時代になる。

しかし、アフターコロナの時代になっても、元に戻ることはない。コロナ禍が突きつけたのは、対面授業の意味であり、さらに言えば大学とは何かという問いである。教員の中には、オンラインになって授業を作り直す中で、「今までの自分の教え方は不十分ではなかったのか」「教室で学生がこつちを見ているから、ちゃんと授業ができていないか」と思い込んでいただけではないか」と教え方を見直すきっかけになったという人も多い。学習効果もオンラインの方が高い部分もあるとなれば、オンラインではできないこと

とは何なのかとなる。

オンラインであれば、海外とつなぐことも容易にできる。同じような科目を各大学に置く必要があるのか、研究者としても一流で教え方がうまい教員の授業を受講したほうがいいのではないか。MOOCsや放送大学のコンテンツではないか。裏返せば、対面授業でやるべきことは何なのか、対面授業の意味が問われることになった。

オンライン授業の最大の短所は、キャンパスで人と人がつながる「場」が持てないことである。オンラインで知識は伝えられるが、人と人がその「場」を共有し、対話や議論を通じて知識を深めていくことは限定される。また、学生にとって、大学は授業だけの場所ではない。高校までとは全く違う教員や各地から集まった友人に出会い、ボランティア活動や留学などさまざまな体験をしていく「場」である。

## 「危機」から「好機」へ

新型コロナウイルスは日本の大学にとって、思わぬ形で転がり込

んできた好機であると思は思う。課題が多すぎると学生は不満を言うが、これまでの学習時間が短すぎたのだ。以前から指摘されていた、欧米の大学生に比べて学習時間が短すぎるという課題が解決する糸口になるかもしれない。

何より、これまで対面授業を前提に、長年の経験で培った自分の授業の型を守ってきた教員たちが、ある部分はオンラインで代替できることを知り、授業を見直すきっかけになったことが大きい。知識はあらかじめ学生が自宅で勉強しておいて、大学では少人数でディスカッションし、深めていくという、長年の課題とされてきた反転授業が、思わぬ形で実現するかもしれない。

新型コロナウイルスが喉元を過ぎたら、以前と変わらない対面授業に戻ろうとしている大学には、明日はないだろう。それだけでなく一八歳人口は二〇二一年から大きく減り始める。コロナが突きつけた課題を真摯に受け止め、日本の大学が変わっていくきっかけになってほしいと願う。

## 「第二の不可能」を追い!

理論物理学者、ありえない物質を求めてカムチャツカへ  
スタインハート 凄腕の理論物理学者とその仲間が「不可能な物質形態の証明に挑む。物質科学が面白い! 斎藤隆史訳 ¥3400

## レジリエンス思考

変わりゆく環境と生きる

ウォーカー／ソルト 生態系の「自己を維持する能力」に注目し、意図しない激変のリスクを把握する。必携書。黒川耕大訳 ¥3600

## アメリカの世紀と日本

黒船から安倍政権まで

パイル 無条件降伏の呪縛と米國廟権の時代を日本はどう生きたか。日米関係の過酷な鏡が映す日本の姿。山岡由美訳 ¥4800

## RCT 大全

ランダム化比較試験は世界をどう変えたのか

リー 医療、教育、経済政策まであらゆる分野でエビデンス革命を起こしつつある全貌を網羅的に紹介する。上原裕美子訳 ¥3200

## 心の革命

精神分析の創造

マカーリ 主要言語のほとんどに翻訳され世界的水準で認められた精神分析史。現代人の心の歴史を探る。遠藤不比人訳 ¥8000

## シリア獄中獄外

サーレハ 16年に及ぶ監獄経験、出獄後の元政治囚の生活、国内情勢ほか、シリア人作家による政治的省察。岡崎弘樹訳 ¥3600

## それでも。マキアヴェッリ、パスカル

ギンズブルグ 権力と宗教を巡り制約を可能性に変えようとした人々。継承関係を明かす隠れた政治神学史。上村忠男訳 ¥5700

東京文京本郷 2丁目20-7

みすず書房

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)

www.msuz.co.jp



## オンライン教育のこれから——変わる方法、変わらない思い

吉田 暎

(東京大学 大学院工学系研究科・大学総合教育研究センター准教授)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大の影響を受けて、多くの大学が従来は対面で行っていた教育、研究、管理運営、社会貢献の活動をオンラインで行う必要に迫られた。このような前例のない取り組みを行う中、大学が持つ大きな役割の一つである教育を止めないことは、二〇二〇年春における重要なミッションであった。そのようなミッションを達成するためには、学生および教職員全員が教育方法の変化に対応する必要があった。

筆者もその内の一人であり、全学的な教育を支援する大学総合教育研究センターの一員として、全力でサポートを行ってきた。それらの経験をふまえつつ、本稿では遠隔授業、いわゆるオンライン授業を中心に、今起こった教育の変化や今後の展望について、本学の事例も交えながら説明および考察していく。具体的には、まず授業の変化について述べた後、大学教育にオンライン授業を継続的に取り

入れていく際に重要なことについて説明し、最後にまとめと今後の展望を述べる。

### 実際に授業がどのように変わったのか

二〇二〇年七月一日時点の調査(文部科学省二〇二〇)によると、全大学で授業が実施され、八割を超える大学がオンライン授業を活用していた。COVID-19感染拡大という未曾有の状況においても、教育を止めないことを目的に各大学が対応してきたことが把握できる。海外に比べてオンライン教育が浸透していなかった日本において、多くの学生および教職員が初めてオンライン授業を体験することとなった。特に教員は従来との対面における授業方法を大きく変えて、オンライン授業を実施する必要がある、そのオンライン化には大きな労力と時間がかかったと推察される。オンライン授業に関する学生アンケート(例えば、田浦



健次朗二〇二〇、植原啓介二〇二〇）を参考にすると、概ね肯定的な評価であること、オンライン授業のメリットが認識されていることから、今後もオンライン授業は一つの主な形態として大学教育に残り続けるであろう。その際、今回各教員が培ったオンライン授業の経験および知見は、今後の教育において大きな財産となるだろう。そのため、オンライン教育に関する既存の研究知見に加えて、そのような実践を共有する環境整備が求められる。

本学では、実践知を全学的に共有するため、学生アンケートに設置していた「良かった授業」に関する自由記述欄から、各学部で実践されたグッドプラクティスを選出して、その授業を担当された教員へのインタビュー内容を公開している（東京大学二〇二〇）。例えば、薬学実習の授業では、オンライン化が難しいと言われつつも、実習のエッセンスを学んでほしいという思いから、教員がeラーニング教材開発ソフトウェアをゼロから学び、実験の様子を録画した動画、実験手順を確認するクイズ、実験で得られたデータ

を分析する課題を組み合わせた独自のeラーニング教材を開発し、学生から高い評価を得ていた。また、農学の授業では、基礎知識を学ぶ動画教材を視聴しやすいようにトピック毎に分割して開発および提供し、学生が個別に学習した後、それに関する質疑応答をリアルタイムで行うことで双方向性も担保する、オンデマンドとリアルタイムを効果的に組み合わせた授業が展開されていた。さらに、教育学の授業では、オンライン会議システムにおけるリアルタイムのアンケート機能、学生達をグループ分けして小会議室に割り当てることができるブレイクアウト機能を利用して、教員と学生、学生同士のインタラクティブ性を多く生む、オンラインにおける協同学習を取り入れた実践が行われていた。

このように各教員は、対面授業からオンライン授業という点で授業の方法は変わるが、「学びを届けたい」という変わらない思いを持って授業を行っていた。オンライン授業はあくまでも形態の一つ、方法の一つであり、教員が学んでほしいという確固たる思いを持っているならば、創意

## 新刊案内

### ●東日本大震災から一〇年、被災者の生きがいの復興に向けて

# 震災復興と生きがいの社会学

望月美希 著

A5判 三〇四頁・本体七八〇〇円

「私的な問題」から捉える地域社会のこれから  
被災地復興から地域再生に向けて、震災前のライフヒストリーと震災後の想いについて被災者の語りに焦点を当て復興に向かう人々の姿を記録する。

### ●一〇年も仮設に住まざるを得なかった被災者の暮らしを検証

# 仮設住宅 その二〇年

陸前高田における被災者の暮らし

宮城孝・山本俊哉・神谷秀美／陸前高田地域再生

支援研究プロジェクト 編集 菊判 三三〇頁 本体六五〇〇円

地域福祉、都市計画、まちづくり、社会疫学等の研究者、実務家で構成される支援プロジェクト十年間の模索と提言。

## 御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20  
電話03-5684-0751  
<http://rr2ochanomizushobo.co.jp/>

工夫をすることで学生の学びを促すことができるのである。

## 大学教育にオンライン授業を継続的に取り入れる上で重要なこと

大学教育にオンライン授業を主な形態の一つとして継続的に取り入れる上で、配慮すべき点は数多くある。例えば、学生、職員、教員が授業を受ける、支える、行うために必要な各々のデバイスおよびネットワーク環境の整備、学習管理システムやオンライン会議システムなど授業に関連するシステムの整備、それらシステムの使い方に関する支援、言語や障害など多様性に対する配慮、構成員のメンタルケア、カリキュラムの再編成など枚挙にいとまがない。

どれも重要で欠かせないトピックであり、それらに対して大学は多様な支援を行っていく必要があるが、本稿では、全学の教育支援センターに所属してサポートを行ってきた筆者の視点から三つに絞って説明する。

### ① 教員のサポート

強い感染力を示す新型コロナウイルスを目の前に、伝統的に行われてきた教室における対面での講義スタイルを多くの教員が変更せざるを得なかった。対面では当たり前のように行っていた教室への入室さえ、オンライン授業においてはバーチャルに「教室」を用意した上でソフトウェアを操作して入室する必要がある。また、オンライン授業の場合、リアルタイムに実施する同期型の授業に加えて、準備された教材を学生が各自学習する非同期型の授業、い

わゆるオンデマンド授業、さらにはそれらを組み合わせた授業など、多様な授業形態が存在する。教員は授業を行うために、それらの中から適切な授業形態を選択した上で、学習に関連する各種システムを理解し、活用する必要があらう。

教員がそれらについて独自に調べた上で授業に取り入れるには多くの労力と時間が必要となり、肝心の授業内容の検討に時間を割けなくなってしまう。そのため、関連するシステムの説明や授業における活用方法などオンライン授業における基本的な情報の提供は肝要であり、今後そのようなサポートは必要になっていくだろう。

本学では、二〇二〇年三月上旬から授業のオンライン化が必要になる可能性が高いことを考慮して、主にシステムを管理運営する情報基盤センターと使い方の支援を行う大学総合教育研究センターを中心に、授業のオンライン化に関する対応を全学的に展開してきた。具体的には、説明会および講座の実施、ワンストップで情報を得るためのポータルサイト構築、個別のトラブルに対応するためのメールサポート体制の整備、後述する学生サポーター制度の設立など多岐に渡る支援を行ってきた。

全てのサポートが必要不可欠だと考えているが、紙面の関係上、説明会および講座を例に詳しく説明する。授業に関連するシステムの説明会を行った後、同期型の授業の実施方法として、授業で最も用いられるであろうと思われる

オンライン会議システムZoomの授業における使い方に關する講座を提供し、その後はオンデマンド授業の実施方法に關する講座など、情報提供が必要と思われるものについて三月中に急速に準備を進め、次々と提供していった。

Zoomの講座に關しては定員1000名を超える参加があり、そのニーズの高さが伺えた。また、当該講座の内容は学外の方にも有用であろうと考え、時間をどうにか見つけて五月のゴールデンウィーク中の五月五日に一日の講座を開催した(吉田・栗田二〇二〇)。その際、広報期間が四日間ほどであったにも関わらず一八七三名の参加応募があり、そのような情報のニーズが全国的にも高いことがわかった。

技術の進歩は速いことから、技術を活用するオンライン授業を実施していくために必要な情報を適宜教員に共有する体制は今後も求められるだろう。また、たとえ大学内で十分情報共有ができる体制が整備できない場合でも、ある大学が得た知見を全国的に展開することによって、日本全体の教育の質向上が実現できるであろう。

## ② 学生の協力

効果的にテクノロジーを取り入れた教育を行う上では、ICTツールの使い方など技術に關する知識(CK: Technology Knowledge)、教授学習の方法など教育に關する知識(PK: Pedagogical Knowledge)、「教える内容に關する知識(CK: Content Knowledge)」を統合することが肝要である(TPACK: Technological Pedagogical Content Knowledge, Koehler and Mishra 2009)。教員は授業内容に關する専門性は高いが、必ずしも技術に關する知識を豊富に持ち合わせているわけではなく、場合によっては学生の方が技術に關する知識を持っていることもある。それを考慮すると、オンライン授業において技術的な側面から学生が協力してくれることで、より良い授業運営をできる可能性が高まる。そのため、オンライン授業において学生の協力は重要であり、積極的に授業運営に關わってもらうことはより良い教育につながると思われる。実際、本学において、オンライン授業を円滑に実施する上で学生の協力は必要不可欠であると感じている。例えば、

日本史を「東北」から見ると  
どのような姿になるのか!

## 大学で学ぶ 東北の歴史

東北学院大学文学部歴史学科編  
旧石器時代から東日本大震災まで  
東北独自のトピックスを盛り込んだ  
通史テキスト。 1900円

享徳の乱から大坂の陣まで、  
160年におよぶ戦国社会の全貌!

## 列島の戦国史

全9巻◆刊行中 各2500円

### ① 享徳の乱と戦国時代

久保健一郎著 戦国時代の開幕を見とす。

### ② 大内氏の興亡と西日本社会

長谷川博史著 変動する東アジア海域。

### ③ 室町幕府分裂と畿内近国の胎動

天野忠幸著 新たな社会秩序形成へ。

### ④ 毛利領国の拡大と尼子・大友氏

池 享著 西国覇権争いの新局面。

### ⑤ 東日本の統合と織豊政権

竹井英文著 「天下統一」前後の東日本。

われわれは宗教をどう理解し、  
いかに向き合うか?

## 日本宗教史 全6巻

刊行中 各3800円

### ① 日本宗教史を問い直す

吉田一彦・上島 享編  
宗教の豊かな歴史を語る総説編。

### ② 宗教の融合と分離・衝突

伊藤 聡・吉田一彦編  
「在来」と「新来」との重層、対立、融合。

### ③ 日本宗教史研究の軌跡

佐藤文子・吉田一彦編  
近代国家の展開に共振する学問史を洞察。

子どもたちが歩んだ過酷な歴史を  
知り、戦争の悲惨さを学ぶ!

## 戦争孤児たちの 戦後史 全3巻

刊行中 各2200円

### ① 総論編

浅井春夫・川満 彰編 現代的観点  
から問題を考える姿勢を提示。

### ② 西日本編

平井美津子・本庄 豊編 原爆、沖  
縄戦、引揚…。生きるための戦い!

## 吉川弘文館

〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151 / 価格は税別  
2020-2021年版 | 出版図書目録 | 送呈

オンライン授業の運営を支援するクラスサポーター、オンライン授業に関するトラブル対応を行うコモンサポーター、Web記事を作成する学生など多様な学生が多様な場面で活躍している。より具体的なイメージを読者に持つってもらうため、ここではクラスサポーターとコモンサポーターについて詳しく説明する。

クラスサポーターとは、オンライン授業の運営を支援する学生のこと、例えば、授業時間外にWeb会議システムを用いた授業の試行錯誤を教員と一緒にしたり、教員の音声がミュートになっている時に指摘したりするなど、TAほどは重くない教育支援活動を行う学生である。四〇〇名以上の学生がクラスサポーターとして活動しており、円滑な授業運営において重要な役割を担っている。

コモンサポーターとは、全学的に各構成員の技術トラブルに対応する学生のこと、効率的な問題解決を図るためにチャットサービスを運用している。チャットサービスとは、相談者がWebページ内のチャットボックスで問題を対話的に解決できるもので、まずチャットボックスによる自動応答でトラブル解決を図り、自動対応できない場合は学生がオペレーターとして対応するものである。多くのトラブルは自動で解決され、1割程度は個別対応する状況となっており、トラブル対応において大きな役割を担っている。

このように、学生の協力を得ながらオンライン授業を実施する環境を整備することで、より円滑な授業運営が実現

できると考えられる。また、次の項目にも関連するが、これらの活動は学生にとって正課外の活動としてインフォーマルな学習の機会ともなることが期待できる。

### ③ インフォーマルな場の創出

大学教育においては単位履修を伴う授業や研究などの正課教育のみならず、ボランティア活動やサークル活動等のある授業はオンライン化された一方、サークル活動など正課外教育のオンライン化は十分に行われているとはいえず、その機会は少なくなっている。また、オンラインを活用することで効率的に授業参加ができるようになった反面、授業後のふとした雑談や友人との登下校といった「遊び」の時間もなくなっているため、孤独感を覚える学生も一定数存在する。そのためインフォーマルな学習やコミュニケーションの場が求められている。

その解決策の一つとして、対面における授業や活動を増やすことが挙げられるが、COVID-19の感染状況が収まらない現状で米国の大学のようにクラスターが発生した場合は、再度オンライン化せざるを得ない可能性がある。そのため、授業毎にオンラインで雑談も含めて意見交換できる場を設ける、オンラインで学内のコミュニティを作る環境を整備するなど、オンラインにおけるインフォーマルな場を提供するような工夫も肝要だと考えられるが、この点は現状の課題となっている。

## まとめと今後の展望

今回のオンライン化で、多くの学生および教職員がオンライン授業を体験し、その価値に気付いたため、COVID-19が収まった後でも、オンライン授業は大学教育における一つの主な形態として残り続けるだろう。また、オンライン教育を効果的に実施する上では、教員へのサポート、学生の協力、インフォーマルな場の提供を始めとして、数多くの支援や配慮が重要である。

今後は学生および社会の要望もことから、対面の授業や活動が徐々に増えていくだろう。ただ、対面あるいはオンライン授業のどちらを希望するかは、学生および教員の各個人によって異なるため、授業方法はより一層多様化する。例えば、対面における授業を同時にオンラインで配信する形態や、教室に学生が集まっている状態で教員は遠隔から授業する形態が挙げられる。そのため、対面とオンラインを組み合わせる方法の検討および習得が求められる。また、コロナ禍によって多くの大学がほぼ強制的に授業をオンライン化せざるを得なかったため、その準備に十分な時間がとれなかったと思われるが、今回の経験を活かし、今後は授業の更なる高度化がされていくだろう。例えば、オンデマンド授業とリアルタイムのオンライン授業の効果的な組み合わせ、オンデマンド授業と対面授業の組み合わせである反転授業、オンラインにおける協同学習、移動

が伴わない利点を最大限に活かした国際交流が挙げられる。未だにCOVID-19と人類がいつまでどのようなように共存していくのか不明確であるものの、今後どのような予想し得ない事態が起こったとしても、「学びを届けたい」「学びたい」という変わらない思いがある限り、方法は変わったとしても、全員が一丸となって教育を維持し続けていくだろう。

### 【参考文献】

- 植原啓介 (二〇二〇) 慶應 SFC における遠隔授業とアンケート調査結果、第一〇回四月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシポジウム、オンライン開催、二〇二〇年六月五日
- Koehler, M., & Mishra, P. (2009). What is technological pedagogical content knowledge (TPACK)? Contemporary issues in technology and teacher education, 9(1), 60-70.
- 田浦健次朗 (二〇二〇) オンライン授業に関するアンケート結果の紹介、第一五回四月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシポジウム、オンライン開催、二〇二〇年九月四日
- 東京大学 (二〇二〇) グッドプラクティスの共有、<https://utecon.github.io/good-practice/> (アクセス日: 二〇二〇年九月一八日)
- 文部科学省 (二〇二〇) 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況 (令和二年七月一日時点)、[https://www.next.go.jp/content/20200717\\_nxt\\_kohhou01-000004520\\_2.pdf](https://www.next.go.jp/content/20200717_nxt_kohhou01-000004520_2.pdf) (アクセス日: 二〇二〇年九月一八日)
- 山田剛史・森朋子 (二〇一〇) 学生の視点から捉えた汎用的技能獲得における正課・正課外の役割。日本教育工学会論文誌、三四 (一)、一三—二一。
- 吉田壘・栗田佳代子 (二〇二〇) 学びを促すオンライン授業に向けたZoom 講座、<https://sites.google.com/view/enhance-learning/home> (アクセス日: 二〇二〇年九月一八日)

## 五〇年後の大学解体——コロナ禍が顕在化させた「大学のネオリベ化」

田中駿介（慶應義塾大学 法学部四年）

「大学を解体せよ！」——およそ半世紀前に全共闘の学生が掲げたとされるスローガンが、ふと頭によぎる。キャンパスが事実上ロックアウト（封鎖）され、図書館も満足に使えないにもかかわらず、相変わらず「就職予備校」としての大学が「通常運転」である情況を目の当たりにした筆者の正直な感想である。

本稿では、慶應義塾大学に通う一学生としてコロナ禍が学生生活に及ぼした影響を指摘するとともに、そうした状況を招いた社会構造についても考察を行っていきたい。

**就職活動は「通常運転」、図書館にすら入れなかったのに：**

かつて小田実は「大学解体」を訴えるのであれば、本当に否定すべきなのは「大学本体」や「授業」ではなく「就職相談部」であると指摘していた。

どうして、学生たちは、「就職相談部粉碎！」に乗り

出さなかったのだろうかと思う。大学を占拠したときでも、そこだけ手つかずのままおいておいたという話をよくききますが、そのかんじんのところ、「産学協同」のカナメになるところをどうして手つかずのままにしておいたのか。手つかずにしておくことで多数の学生たちの支持が欲しかったというのなら、それはあまりにも次元の低い政治で、「自己否定」の調子の高い叫び声から考えるとまったくマヤカシとしか言いようのないものでしょう。<sup>(1)</sup>

しかしコロナ禍により解体されたのが、「就職窓口」ではなく「授業」の側であったことは明確であった。もう少し厳密に言えば、「キャンパスに集まって、講義を聴講したり、試験を受けたりする」という意味においての「授業」が、オンラインによって代替されることとなった。もちろん、全てのオンライン授業が必ずしも授業の「質」の低下

を招いたとは思わない。むしろ、学生にとっても教員にとっても通常授業より負担が大きくなり、授業の「質」が個人の通信環境や生活環境、あるいは授業形態に大きく依存するようになったのではないだろうか。受講に必要なパソコンやインターネット環境は、原則自己責任で用意、維持させなければならなかったからである。

他方で、「就職窓口」は通常運転なのであった。悲しいことに、ロックアウトにもない一度もキャンパスに足を踏み入れたことがない新入生が、対面授業を受けたり図書館を利用したりするよりも前に、「インターネットシップ」と称する企業の研修に精を出すという状況もあったという。現在、九割の学生が「インターネットシップ」に参加するというデータもあるようだ。

### コロナ禍での「被害」

大学の「オンライン化」によって喪失したものは、「偶然の出会い」である。これは単に学祭やサークル活動を通

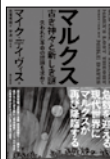
じての友人関係が希薄化したことにとどまらず、「学問」との出会いの場も縮減された。従来ガイダンス期間には、所属する学部や履修の有無にかかわらず、正式に授業を聴講することができた。実際、筆者も教室を外から覗いて、雰囲気良さそうだからという理由で、自らの関心のある授業を発見することができたことがある。当該授業は「経済学部」設置の「少人数セミナー」というもので、他学部の履修案内や時間割からは情報を得にくいものだった。この授業が「文芸批評理論」として開講されているにもかかわらず文学部の学生はいなかったことから分かるように、学生にとって「縦割り」を超えた履修を組むことはただでさえ難しいものだったようだ。

オンライン授業では、「仮の時間割」を提出しなければ、そもそも授業にアクセスすることすらかなわない。当然、「仮の時間割」にはシステム上での履修制限が課せられており、関心がありそうな授業が重複した場合、ガイダンスを受ける前に「選択」をしなければならなくなった。

## マルクス 古き神々と 新しき謎

失われた革命の  
理論を求めて

マイク・デイヴィス 著  
佐復秀樹 訳 宇波彰 解説



マルクス、エンゲルスの思想に立ち戻り読み直し、地球環境危機の進む現代における新たな変革を追究する。

四六判 / 3200円

## サイバー ハラズメント

現実へと溢れ出す  
ヘイトクライム

ダニエル・キーツ・シトロン 著

明戸隆浩、唐澤貴洋、  
原田學植 監訳 大川紀男 訳



ネット上のヘイトクライムを広く対象とし、仮想空間／現実空間の境界の消失点を見定めた名著の邦訳版。

四六判 / 4500円

## 香港の歴史

東洋と西洋の  
間に立つ人々

ジョン・M・キャロル 著

倉田明子、倉田徹 訳



植民地初期から中国返還までを描いた、香港の本格的通史。香港の歴史を知るための基本となる一冊を邦訳。

四六判 / 4300円

明石書店 (価格・税別) 図書目録送呈

東京都千代田区外神田 6-9-5  
Tel.03-5818-1171 Fax.03-5818-1174



オンライン化によって失われたものは、正式な「履修科目」以外の聴講だけではない。同様の現状は図書館をめぐる状況についてもいえる。いま図書館の入館可能な時間は制限されている。本来、開架図書館は分類ごとに本が並べられ、誰でも自由に資料を手にとって見ることができるとに意義があるはずである。提携図書館の相互利用や、OBの図書館利用も殆ど「利用停止」状態が続いている現状も見逃せない。「学外者」の図書館からの締め出しを行ったところで、どれだけ感染予防に寄与しているかは明らかになっていない。長く続いてきた大学や学生・研究者間の「信頼関係」が、公衆衛生を名目として事実上停止されてしまっている現状に対して、憤りを感じる。

### 加速する大学の「ネオリベ化」

学生からは学費減免措置を求める運動が盛り上がりつつある。しかし、一部の大学で五〜一〇万円程度の返還（しかも申請主義を徹底し、対象者の絞り込みを徹底させた場合が多い）や、奨学金制度の拡充がなされた以外、ほとんどの大学では「ゼロ回答」だったようである。いま韓国では「学費返還訴訟」が提起されているようである。米国でも追従する運動があるようだ。

筆者が思うには、こうした動きに戦々恐々としているのは、大学の経営陣よりむしろ非常勤の教職員かもしれないということだ。なぜなら「次に首を切られるのは、私たち

の番」であると当然考えていると思われるからである。

現在、大学教員のうち「専任」以上の職に就けている割合は約半数にすぎないという。言い換えれば、残りの半分は非専任での採用になっている。非常勤講師をしている周囲の教員からも、「パソコンを買い替えたいが予算がない」「通信環境が良くないが、配信をしないといけない」等々の悲鳴が聞こえてくる。「困窮」する教員も多いなか、大学が学生に手厚くすれば、次に切られるのは私たちだという風潮が生まれていった。

非正規化の進行でいつ「首切り」に遭うか恐れをなしている教職員と、困窮している学生が「連帯」して、大学の処遇改善を訴えていくことができればいいだろう。しかし、多くの学部生にとってあくまでも「先生は先生」と捉える向きが多いようで、学生からすると「この困窮状況を、だれに訴えればいいのか」といったように、批判の「あて先」がわからないという声が散見されている。

こうした教員の非正規化は、他方で「順当な競争の結果」という仮面を被って正当化されてきた感は否めない。「大学に対して、競争原理を過度に導入し、経営論理を徹底させていこう」という方針は、決してコロナ禍によって始まったわけではない。それはつまり「大学自治」の解体を意味するもので、一つのエポックになったのは二〇〇一年だと筆者は考えている。二〇〇一年は東大駒場寮の強制排除があったが、ちょうど時を同じくして早大早稲田キャンパ

スの地下サークル部室強制撤去事件が起きた。表向きには「安心・安全」を名目として「監視カメラ」を設置させるという口実で、学生の自治にかわって、当局の監視・処罰体制が強化されたのである。その四年後には、早大文学部キャンパス内で、ビラまきをした男性が、文学部教員が呼んだとされる警察官によって逮捕・勾留されるという事件も発生した。このようにして学生の自治組織は、ズタズタになってしまった。筆者が所属する慶應義塾大学に関していえば、いまや学祭実行委員会では、いかにスポンサーをつけるのかといった「競争」を学生間で行っているという話すら聞く。

大学の位置づけが、(資本主義的論理とは必ずしも相いれない)「知性」を養う場から、産業界にとって「有用」とされる人材を育成する場へと転落しつつあるのである。もちろん、これは大学のみに責任があるとは筆者は思わない。他ならぬ、政府の責任を追及する必要があるだろう。

安倍政権が掲げた「人づくり革命」の目玉政策であった高等教育「無償化」(適用されるのは、住民税非課税世帯に限られ、とても無償化とは言いがたいが)の対象になるのは、「産業界のニーズも踏まえ、企業などで実務経験のある教員」を一定割合以上配置している大学に通う学生に限られるべきだとされた。筆者自身、研究者に代わって実務教員が増加していることは肌で感じてきた。では、ポストが減らされた人文系・社会科学系の「研究」を志すものはどう生きていけばいいのか——政府が出した答えは「社会的要請が低い分野」の切り捨て、であるように筆者には映る。周知のとおり、「組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努め」よ、と各国立大学に通知したからである。

しかし、こうした政府の方針に大学が加担した事実是指摘しておかねばならない。一九二の私立大学に、少子化にともなう学生数減少への対処を問うた読売新聞の調査があった。一四三は広報を強化しますと答え、一二四は設備投

<p>市川 寛著</p> <h1>ナリ検</h1> <p>ある次席検事の挑戦</p> <p>市川 寛著</p> <p>ナリ検</p> <p>元検察官の著者が厚いペールに覆われた検察内部の世界を赤裸々に、そしてリアルに描き出すリーガル小説。</p> <p>◎本体1700円+税</p>
<h1>憲法II</h1> <p>総論・統治</p> <p>渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗[著]</p> <p>『憲法I基本権』の続編、待望の完結編!</p> <p>◎本体3200円+税</p>
<p>新版</p> <h1>進化する経済学の実証分析</h1> <p>経済セミナー編集部[編]</p> <p>この1冊で、経済学の実証分析のフロンティアがわかる!</p> <p>◎本体1800円+税</p>
<h1>宇宙の隠れた形を解き明かした数学者</h1> <p>カラピ子想からポアンカレ予想まで</p> <p>シン=トウン・ヤウ</p> <p>スティーブ・ネイティス[著]</p> <p>久村典子[訳] ◎本体2800円+税</p> <p>数学と物理に橋を架けた数学者が語る真実。</p>
<h1>圏論入門</h1> <p>Haskellで計算する具体例から</p> <p>雪田修一[著]</p> <p>関数型プログラミング言語Haskellによる圏論の入門書。圏論の最初の到達点である「米田の補題」を理解することを目指す。</p> <p>◎本体3400円+税</p>
<p>日本評論社</p> <p>〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4</p> <p>☎03-3987-8621 <a href="https://www.nippyo.co.jp/">https://www.nippyo.co.jp/</a></p>

資を増加させ、一〇〇は就活支援を充実させると回答した  
そうである。学生の自治や自由を認めていくというものが  
ないばかりか、学術研究を充実させるというような回答も  
一切なかったようである。政府と大学の経営陣がいわば共  
犯関係的に、学生自治の営為と引き換えに就職予備校化を  
推進してきた。まさに大学運営に経営論理を徹底させてし  
まったのである。そのような大学が抱える「矛盾」が、コ  
ロナ禍により噴出したのではないかと筆者は考えている。

### 「セーフティーネット」としての大学の役割

また、大学の抱える役割は、研究・教育や自治だけにあ  
るわけではないと筆者は考えている。現在の大学には「セ  
ーフティーネット」としての役割もあるといえるだろう。  
「大学全入時代」が謳われるようになった今日、経済的あ  
るいは精神的に困難を抱えている学生の割合は増えてきて  
いるのではないだろうか。

筆者は大学で「発達障がいを支える会」というサークル  
を立ち上げ、活動した経験がある。そこで出てきた問題提  
起は非常に興味深いものばかりであった。慶應の場合、履  
修登録時にはパソコンからの操作が必要であるが、煩雑な  
操作が必要であるうえに、それぞれの教科の名前が非常に  
分かりにくいという指摘があった。例えば筆者は「人間科  
学特殊25A」という教科を履修したことがあるが、この25  
はローマ数字の25 (XXV) で記されていた。ただでさえ操

作が難しい大学のサイトに、難解な授業名が表示されるの  
である。操作方法を学生部に問い合わせても、対応をする  
職員はほとんど非常勤で、必ずしも親身なサポートを得ら  
れるとは限らないのである。ロックアウトに伴い、学生部  
窓口も閉鎖されるなか、十分な操作方法等の支援をオンラ  
インで受けることが可能なかは疑問に感じる。

同様の懸念は「学生相談室」の閉鎖についても当てはま  
る。授業の履修から就職活動や人間関係に至るまで、学生  
が抱えがちな悩みの相談に乗ったり、精神的なカウンセリング  
をしたりする場で、学生は原則無料で利用することが  
できる。しかしロックアウトに伴い、相談室も対面での利  
用ができない状況が続いている。数年前に都内の短大を卒  
業した筆者の知人は、入学直後から週に一度ほど、学内の  
カウンセリングルームを利用してきたという。双極性障害  
当事者である彼女によれば、精神的に不安定なときでも駆  
け込める場所があったからこそ卒業できたのだという。

今年八月、全国における自殺者が、昨年同月と比較して  
大幅に増加したという報道もあったが、コロナ禍で精神的  
に追い込まれる人が増加していることは想像にかたくない。  
そうした状況下において、電話やメールでカウンセリン  
グを代替することが果たして可能なのだろうか。もちろん  
それが「救い」になる場合もあるだろう。しかし、家族や  
パートナーから虐待を受けている場合はどうだろうか。あ  
るいは電話代を躊躇して、相談に二の足を踏むケースはな

いのだろうか。事態を整理して話すことが難しい状況に置かれた利用者にとっては、電話やメールのみで自らの状況を説明し言葉にする作業は、ときに大きな苦痛を伴う。感染症によってではなく、セーフティネットとのつながりが欠くことによって「守れない命」が生まれてはならない。

### 日大全共闘議長の手紙は色褪せない

およそ五〇年前「大学解体」を訴えたことされる、日大全共闘議長の秋田明大が巻頭言を記した一九六八年の日大経済学部新歓パンフは、大学当局により発禁処分を食らってしまう。しかし、今改めて読み返しても非常に「今日的」問いにあふれているように筆者には感じられる。

現状を批判的に述べてきたが、自分の学校を批判ないし批評するのは根本において自分の学校を愛していればこそ批判ないし批評するのであって、もし何の存在意義も認めないのなら興味すら起らないであろう、我々が大学の存在意義を認めるなら現状を批判的態度でのぞみ、もしも我々の環境が営利第一主義によって歪められ、我々の権利として存在する学生生活の保障、学問の自由が保障されていないなら、あるべき姿の大学に正す為には我々は断固とした闘いを組まなければならぬ、それが真の母校愛なのである。(…中略…)

新人生・移行生諸君、我々の前には考えなければならぬ問題が山積みされている…<sup>3)</sup>

筆者もまた学問を愛し、「大学」に存在意義を認めている一政治学徒である。繰り返すが、筆者が高い学費を払って大学に通う理由は、産業界の要請にこたえられる訓練をしたいからではなく、「学問追究」のために他ならない。

しかし、状況は日に日に悪化している。カナダのジャーナリスト、ナオミ・クラインが『ショック・ドクトリン』で主張したように、過激な市場原理主義改革は、大惨事につけ込んで、人々に動揺を与える形で行われてきた。いわゆる「惨事便乗型資本主義」である。この国ほど、この事態がリアルなものとして立ちはだかっている国もないのかもしれない。なにせコロナ禍中に、「自助」を第一に掲げる政治家が一国のリーダーに就任したのだから。

コロナ禍が突きつけたのは、畢竟「なぜ、我々は学ぶのか」「大学は何のためにあるのか」という問いである。自分なりの答えを発見するため、これからも探究していきたい。そしてそれは半世紀にわたり「大学」が抱え続けている「宿題」でもあるのだ。

- (1) 小田実「世直しの倫理と論理」岩波書店、一九七二年、一七二頁。
- (2) 「朝日新聞」二〇一八年五月二八日朝刊、一面。
- (3) 文部科学省高等教育局「新時代を見据えた国立大学改革」  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsfiles/afidfile/2015/10/01/1362382\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsfiles/afidfile/2015/10/01/1362382_2.pdf) 閲覧日：二〇二〇年九月一〇日。
- (4) 「読売新聞」二〇一八年六月二二日大阪版朝刊、一五頁。
- (5) 秋田明大「学生会と我々の任務」「建学の基」一八号、三頁。

## コロナ禍の大学生協

田中直哉

(関西学院大学生協同組合)

### 関西学院大学の対応と新学期教科書販売について

新型コロナウイルスの感染拡大により、関西学院大学(以下、関学)は四月初頭にはすでに四月二一日までの休講措置(授業延期)が決定していたが、生協書籍部では当初の予定通り四月三日より特設教科書販売会場での対面販売を開始した。しかし政府の緊急事態宣言により八日から大学構内への学生の入構が禁止となった。またこの時点で春学期の授業が原則オンラインとなり対面授業がなくなった。そのため教科書販売は、急遽「メール・ファックス・電話」による受注、「宅配・代引き」での発送へと変更し、その旨大学HPへの掲載と全学生へのメール送信を大学に依頼した。また当然ながら学内への入構禁止措置にともない関学生協全店舗も閉鎖となった。

四月八日(水)・・・受注方法をメール・ファックスから

Web受注に切り替えるため、すでに稼働していた「教科書検索サイト」を拡張するかたちで「教科書受注サイト」の作成を生協のHP運営会社に依頼。代引きによる配送についてはヤマト運輸にお願いした。

四月一三日(月)・・・Web受注サイト稼働。これにより「メール・ファックス・電話」による受注を終了。八日から一二日までの受注は四〇〇件弱。一三日当日の受注は五〇件。

四月一四日(火)・・・履修登録が一旦終了した一四日から受注が一日一〇〇〇件を超える。そのため教科書販売スタッフだけでは間に合わず、閉店に伴い自宅待機を余儀なくされた他部門の定時職員に、正規職員を通じて応援を要請。感染防止対策として二チームに分けて一日二〇人前後を交互に出勤する体制をとる。各店舗をまたいだ急ごしらえのチームなので、当初一日三〇〇件ほどの発送しかできな

ったが、慣れてくると一日八〇〇件超までスピードアップした。

四月二四日(金)…一〇日間の一〇〇〇件以上の受注のピークが過ぎた。土曜日にも発送作業を行い、受注から一週間以内での配送が可能となった。ゴールデンウィーク中は祝日も作業を継続したので、連休明けには受注翌営業日には届けられるようになった。ただ、品切れの教科書も増え、受注全点の一括発送ができないケースも目立つようになる。五月一五日(金)…一旦販売終了ということにして返品作業を始めながら、一方で引き続き「宅配」は継続。その後も毎日二〇〇〜三〇〇件の受注があった。

## 販売状況

本来予定していた対面での教科書販売がなくなり、授業もオンラインにシフトしたため、教科書の使われ方や売れ行きがこれまでと違う状況になった。「これまで一〇〇冊以上売っていたテキストが一〜二割しか売れない」「逆に予想外の品切れを起こす」など、これまで実績データに基づいて発注していたものが今回は予測が立たなくなった。想定外に売れた教科書としては、新入生が履修する科目が挙げられる。新入生は入学式もなく、なんとかオリエンテーションは終わっていたが、いきなりオンライン授業ということで右も左もわからないうちにスタートし、履修する科目について情報交換する機会もないまま授業に臨むことに

なった。そのため履修する科目の教科書は最初の時点ですべて購入する、といった傾向が目立った。また、従来は教科書を使用せず板書で講義していた教員も、オンラインになったことで教科書を使用する方法に変更したケースもあった。例年に比べて売れなかったテキストについて、ある教員にヒアリングしたところ、「コロナ禍で評価基準が、早々と『期末の定期試験は行わない』『成績評価は授業における評価、出席状況、レポートによる平常評価』となった。

そのため、試験対策として購入する必要がなくなったことが理由に挙げられるだろう」ということであった。二年生以上が履修できる科目についてはこういった影響もあったが、先に述べた新入生の購買動向によって、結果的に供給高(販売額)は四月〜六月期で一億八〇〇万円、昨年対比プラス七・七パーセントとなった。

もちろん生協書籍部の新学期の供給の柱である教科書販売は、経営的に失敗できないということだけでなく、学生組合員に勉学の基礎物資である教科書を確実に届けるという生協の使命のためにも一丸となって取り組んだ結果といえる。大学においても教科書の必要性については十分認識し、大学HPや学生への一斉メール、ツイートによる案内等最大限の協力をいただいた。

## 教科書以外の書籍部の状況

関学生協書籍部は四月八日からの学内立ち入り禁止措置

の継続により七月二七日まで店舗閉鎖となり、宅配での教科書販売と外販の稼働以外、店舗での販売は一切なくなった。新学期の語学辞書、新入生に薦める本、就職関連本についてはほとんど全滅である。八月までの主要分類の累計では書籍（店売＋外販＋教科書）が約一億五〇〇〇万円、昨年対比マイナス二〇％、そのうち外販部門がおおむね一割減で推移している、なんとかこの程度で収まっている。それ以外では各種専門学校を受付が約二一〇〇万円、昨年対比マイナス七八％、各種検定試験受付が約一五〇万円、昨年対比マイナス八一％となっている。各種専門学校については生協店舗で受付できないため、生協受付金額としては激減しているが、直接学校に申し込んだ場合も手数料はバックされるので、実質的には昨年対比で三割減程度になっている。語学検定試験については新学期以降、英検は六月末まで延期、簿記検定、TOEIC、仏検、独検については六月末までの試験がすべて中止となった。夏以降は状況を見ながら各種試験が実施されているが、司法試験、司法書士試験、公認会計士試験といった国家試験も含め、前期はほとんど中止または延期となった。

### 生協全体への影響

大学生協は、学生組合員、教職員組合員に対し大学生活全般にわたる物品販売やサービスを提供している。今回のコロナ禍による全店休業措置が七月末まで続いたことで、

関学生協全体も相当なダメージを被った。社会的には緊急事態宣言の解除以降、経済社会生活との両立を模索し一部行動制限の緩和もあったが、ご存知のとおり第二波が到来する事態となった。もともと大学生は行動範囲が広く、クラスターの発生など感染リスクが払拭しきれなかったため、小中高に比べてかなり厳しい活動制限レベルを設定してきた。そのため春学期は大学に人がいない状況が続いた。卒業式、入学式の中止、袴レンタルのキャンセルなど新学期イベントの自粛の影響も大きい、主要事業である食堂、食品といった部分の日々の利用がまったくなくなり、下半期にすこし持ち直したとしても経営的には取り返しがつかない状況に陥っている。また世界的な感染拡大状況のため旅行サービスは壊滅的で、いつになれば回復の兆しが見えるのか予測もつかない。G・T・トラベルキャンペーンによって国内の旅行需要が多少喚起されるとしても、これまでの旅行業の取り扱い実績高に依じて予算配分されるため、実際に学生のゼミ旅行であれば二、三件斡旋すれば終わる規模とのこと。ただ、購買部の情報機器分野においては、大学がオンライン授業への対応として、学生希望者にレンタルPC七〇〇台あまり、レンタルサーバーを一七〇〇台貸し出す措置をとり、その代行購入ならびに学生への発送作業を請け負った。供給高ベースで一億六〇〇〇万円程度のコロナによる特需ではあったが、情報機器はもともと粗利率が低い、発送コスト等を考えると収益面で大きく貢



献したとは言えない。

以上、各部門の細かい数字を挙げることはしないが、役員の試算では今年度の関学生協全体の供給規模は年間予算で三〇億程度だったものが二〇億となる見込み。損益も当然赤字決算となる。二〇二一年度においてもキャンパス人口が減ることが想定され、この状況が続けば生協存続の危機に陥るといつても決して過言ではない。全国の多くの大学生協も同様と考えられる。

## 秋学期の対応

この原稿を書いている時点（九月）でも、今後の見通しなど予測しきれないことが多いのだが、現在秋学期以降にむけた準備をしている。感染対策を継続しつつ、大学と歩調を合わせながら第二の新学期を迎えることになる。関学では九月末の授業開始よりオンライン授業を原則とし、一部の授業については、科目数の制限、教室の換気、ソーシャルディスタンス等の感染防止対策を講じた上で、対面授業が実施される。

四月以降ほとんどの学生たちが店舗を訪れることもなく閉鎖になったので、生協にとっても、これからようやく新入生との本格的なお付き合いが始まる。書籍部でも教科書については春学期に急遽開始することになった宅配サービスの継続と対面販売の両方で対応する。

春学期の「Web受注・宅配サービス」では、準備期間

がほとんどなかったため運用上いろいろな課題が残った。

受注サイトからの配送先データの一括ダウンロードができなかったことで、配送チームの何名かが再入力作業に当たることになった。発送時のお知らせメール機能もなかった。で、学生もいつ教科書が届くのかわからない状況だった。教科書購入代については一割引としたが、それに送料と代引き手数料がかかるため、学生にとっては価格面での割引のメリットはほとんどなくなった。また、品切れのため一括発送できなかった教科書は、再入荷後にあらためて注文してもらうため、その都度送料と手数料を負担してもらうことになった。秋学期の教科書販売については、これらの問題点をできるだけ改善して取り組む予定ではあるが、宅配サービスの基本的な運用方法はほぼ同じである。ただし、授業開始にともない構内の入構制限が解除されるため、従来の対面販売も行うので宅配件数は春学期の四分の程度に減ると予想している。

コロナ禍により関学生協をはじめ全国の大学生協の経営環境は大変厳しく、これまでの事業構造の見直しと再構築の上で経営再建に取り組むことになる。大学生協の使命である「協同」「協力」「自立」「参加」を達成するためにも、職員一人ひとりが原点に立ち戻り、必要とされる事業を再確認し、存続のための方策を模索している。関係各位にも状況をご理解いただき、今後とも「協力」ご支援をお願いしたい。

# 大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

大学出版部協会・活動報告

七月三十一日(金)

第三回 理事会

於：ZOOMでの開催

八月七日(金) 一五時〇〇分～

編集部会

於：ZOOMでの開催

八月二一日(金)

一三時三〇分～一五時〇〇分

営業部会主催

第三回オンラインセミナー

『電子書籍セミナー』

講師：木場将彦(電大)

土橋由明(阪大)

坂田優志(関大)

八月二一日(金) 一五時二〇分～

営業部会

九月二五日(金) 一五時〇〇分～

第四回 理事会

於：ZOOMでの開催

※前号(一二三号)の裏表紙「加盟出版部一覽」につき、退会済の「東海大学出版部」「広島大学出版部」が掲載されておりました。両出版部および読者の皆様には、掲載の誤りをお詫び申し上げます。

## 北海道大学出版会

▼永盛俊行・芝田翼・辻規男・石黒誠著『北海道の蝶』(四六判・四三二頁・三〇〇〇円)この蝶、何ていう名前? 見て・探って・探して・飼って・整理して。いま飛んでいる蝶から卵・幼虫・蛹・食草・分布、生態までが一目でわかる、北海道の蝶を丸ごと知るための図鑑。

▼内藤親彦・篠原明彦・原秀徳著/伊藤ふくお写真『日本産ハバチ・キバチ類図鑑』(B5判・五五二頁・一八〇〇〇円)日本産記録種八八五種中五八九種をカラー写真で紹介・解説。日本のハバチ研究約二〇〇年の歴史と著者たちの五〇年に及ぶ研究成果を集大成する専門図鑑。

▼増田隆一編著『ヒグマ学への招待―自然と文化で考える』(A5判・三八四頁・三六〇〇円)ヒグマをキーワードに、生物学はもとより、環境保全、ヒトとの関わり、自然と現代社会の関係を考える。

▼呉泰均著『日本語聞き手待遇表現の社会語用論的研究』(A5判・三五六頁・八六〇〇円)敬語をはじめとする聞き手の待遇を配慮する表現について分析。「ッス」という形式や婉曲な断り表現など、新しい現象の解明にも取り組む。

## 弘前大学出版会

▼嶋沼弘監修 柏倉幾郎編著『福島に学ぶ 放射線総合科学の展開を目指して』(A5判・一七〇頁・一五〇〇円) 福島県内の避難所での支援活動や現地で多様な学術活動に精力的に取り組んできた研究者たちの活動記録。さらには弘前大学で放射線科学分野の国際拠点化が進んでいる現況を紹介している。



▼Radiation Environment and Medicine 編集委員会編『Radiation Environment and Medicine Vol.9 No.1』(A4変形判・四五頁・一〇〇円) 被ばく医療に関わる最新の知見を網羅した総説や原著論文を中心に放射線科学の幅広い分野にわたる論文を掲載した英文学術誌。今号では、放射線生物影響、放射線計測、被ばく医療教育、リスクコミュニケーション等の7報の論文を掲載。

## 東北大学出版会

▼狩野敦著『健康診断医からみた健康管理Q&A』(四六判・六八二頁・五八〇〇円) 病気や加齢変化は私たちの命を阻むが、ある程度予防することは可能である。そのためには、日々の生活習慣の改善と定期的な検診や健診が重要となる。本書は、健康診断医としての長年の経験から選んだ四〇〇項目の疾病や症状について質疑形式で要点をまとめ、その注意点と対応の仕方を解説した専門的な健康指南書。窓口となる担当科も示し、読者の健康増進に資することを目指した。

▼荒武賢一朗、高橋陽一編『古文書がつながる人と地域―これからの歴史資料保全活動』(東北アジア学術読本8) 四六判・一七八頁・二五〇〇円) 少子高齢化や過疎化、さらには各地を襲う災害から、歴史資料保全活動の重要性は一層増している。本書は、東北地方における歴史資料保全活動を追いつながら「保存から活用へ」というテーマを設定し、その方法を提示する。先人からの継承と資料所蔵者の心理、自治体職員との奮闘、そして成果を社会に発信しようとする新たな挑戦に注目し、「歴史の教訓」を未来に伝える。

## 流通経済大学出版会

▼尹敬勲著『第4次産業革命と社会教育』(A5判・一八六頁・三〇〇〇円) 第4次産業革命の余波で機械と人の雇用をめぐる戦いが本格化している。労働者が生き残るために必要な「変化を先取る」学びとは。



▼幸田麻里子／臺純子著『会いたい気持ち動かすファンタリズム―「韓流」ブームが示唆したもの、「嵐」ファンに教わったこと』(四六判・一八〇頁・九五〇円) 憧れの俳優、応援するアイドルのコンサートやイベントに参加するために移動するファンタリズム…本書はこれを詳細に分析し、こうした現代的な観光に迫る。



## 聖徳大学出版会

- ▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一六〇〇円）  
幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。
- ▼宇佐美博子・河村久・神田由紀・黒須利夫・小林芳枝・長橋雅俊・松井孝夫・八木正一著『教職実践演習』（B5判・一四六頁・一六〇〇円）  
中学校・高等学校教諭を目指す方に向け、教職課程の振り返りから生徒指導要録・通知表の記入の仕方まで解説。教職の魅力が満載。
- ▼高橋裕樹著『新しい時代のキャリアデザイン―自分の人生を自ら描くために』（A4判・一六七頁・一六〇〇円）  
全十五章構成で、記入式ワークシートを使いながら、キャリアデザインの基礎から応用まで段階的に理解を深める。「なぜ働くのか」を問いかけてつづ、一人ひとりが激動の時代を乗り切り、力強く生きるための人生の羅針盤となる書。

## 慶應義塾大学出版会

- ▼小熊英二・樋口直人編『日本は「右傾化」したのか』（四六判・三六〇頁・二〇〇〇円）  
嫌中・嫌韓、日本スゴイブーム、排外主義運動の顕在化、ネットに溢れる右派的言説、安倍政権支持の底堅さ――。はたして本当に、日本は「右傾化」したのか。昨今の日本の右傾化の実態を、日本社会全体の構造変化の中で捉える。
- ▼小泉明子著『同性婚論争―「家族」をめぐるアメリカの文化戦争』（四六判並製・二四〇頁・二〇〇〇円）  
苛烈な同性愛者差別を乗り越え、アメリカはいかに同性婚を実現したのか。五〇年代から練り広げられた同性愛者と宗教保守の社会的・法的な闘争を描き、アメリカの現在から日本における議論へと架橋する。
- ▼ニコラス・バー著／権丈善一監訳『福祉国家の経済学』（A5判・五六〇頁・六五〇〇円（予））  
世界的に著名な社会保障研究者が経済学と社会保障論を接続し、理論と政策を包括的に解説した国際スタンダード・テキスト、ついに邦訳。最新第五版で削除された「歴史的背景」「住宅供給政策」を加え、特別版として刊行。

## 専修大学出版局

- ▼野口旭著『経済政策形成の論理と現実』（A5判・二九四頁・二八〇〇円）  
望ましい経済政策を社会で現実化させるためには何が必要なのか。本書は、特定の経済政策の有効性あるいは無効性についての考察を目的とするのではなく、経済政策が実現、成功、あるいは失敗するメカニズムを理論的および実証的に解明する。
- ▼栗田健一著『コミュニティ経済と地域通貨』（A5判・二九六頁・二八〇〇円）  
地域通貨導入によって人々の意識や行動は変わるのだろうか。心理・教育・産業等からのアプローチ、そして、研究者自身によるコミュニティ・ドックの実践報告を通じて、地域通貨の意義と可能性を論じていく。
- ▼梅田充著『インタングブルズ・マネジメントの統合化―コミュニケーション、戦略管理、価値創造』（A5判・二二八頁・二六〇〇円）  
コミュニケーション、戦略管理、価値創造の三つのインタングブルズの測定の役割を統合化することで、持続的な企業価値の創造を提案する。

## 玉川大学出版部

▼吉田文編著『文系大学院をめぐるトリレンマ』（A5判・二二六頁・二八〇〇円）なぜ、文系修士課程修了者は労働市場で評価されがたいのか。その問題は「大学院教員」「雇用者」「大学院生」の三者間に存在する齟齬にあると仮定し、国内外のアンケートやインタビュー調査からその構造を解き明かしていく意欲的な書。

▼川端有子編『庭園家 ガートルード・ジークル』（A5判・一六〇頁・三三〇〇円）イングリッシュ・ガーデンの祖型をつくった女性庭園家、ガートルード・ジークル。絵、工芸、刺繍から造園、執筆まで——芸術と自然を愛しぬいたガーデンナーの人生を、豊富な図版とともにたどる一冊。

▼赤坂憲雄著『災害とアートを探る』（A5判・二〇八頁・二四〇〇円）「災害」と「アート」のフィールドで経験を積んできた七人の研究者が、とくに東日本大震災後のアートとミュージアムのありかたについて語りつくす。生々しい体験をもとに、アートをつうじて災害を伝えていくことの重要性を論じる。

## 中央大学出版部

▼石川幹子著『グリーンインフラ―地球環境の持続的維持に向けて』（中央大学学術図書第99号）（A5判・三三八頁・三五〇〇円）本書は、有限な地球環境の持続的維持のために、自然と人間の共生を目指して歴史的に形成されてきた社会的共通資本、すなわちグリーンインフラ（GI）について、歴史的経緯、各国の事例を精査し、日本におけるGIの特色を明らかにし、戦略的方法論の提示を行っている。大災害・感染症の脅威が世界を襲っている今、本書はポスト・コロナの社会的イノベーションに関心のある全ての人々にとって必読の書である。

▼高尾直知著『嘆き』はホーソンによく似合う』（中央大学学術図書第100号）（四六判・四〇八頁・三八〇〇円）アメリカ一九世紀を代表する小説家のひとりナサニエル・ホーソンの文学作品を、ベニヤミンやフロイトの語る「嘆き」をキーワードにして、作家の作品と社会的コミットメントを解釈し、従来から社会的道徳への無関心が指摘されてきたホーソンの新しい作家像と文学論を立体的に描きだす画期的作家文学論。

## 東京大学出版会

▼寺崎昌男著『日本近代大学史』（A5判・五一二頁・六六〇〇円）明治期の近代的大学の移入から二一世紀の今日まで、激変する時代・社会に日本の高等教育、研究、そして大学の自治を模索した試みを、一貫した視点で活写する待望の通史。

▼A・フレクスナー、R・ダイクラーフ著／初田哲男監訳『役に立たない』科学が役に立つ』（四六判・一六〇頁・二二〇〇円）「有用性」という言葉を捨てて人間の精神を解放せよ。プリンストン高等研究所の創立者と現所長による研究をとりまく社会に警鐘を鳴らすエッセイ。

▼石井直方、柏口新二、高西文利著『筋力強化の教科書』（A5判・二二四頁・二二〇〇円）「見せる筋肉」「使える筋肉」など筋力トレーニングに纏わる誤った「常識」を正し、基礎知識から実践までを第一人者がいていぬいに解説する。

▼矢口祐人編『東大塾 現代アメリカ論義』トランプのアメリカを読む』（A5判・二七二頁・三二〇〇円）トランプのアメリカに焦点をあてながら、アメリカ社会に長く存在してきた価値観の潮流を、具体的な事例を通して照射する。

## 東京電機大学出版局

▼牧野浩二・西崎博光著『たのしくできる 深層学習&深層強化学習による電子工作 Chainer編』(B5判・二〇〇頁・二四〇〇円) 近年、深層学習(ディープラーニング)をもとにする人工知能研究が盛んに行われている。深層学習の多くは、パソコン内の画像などのデータベースを利用していため、実際に手で持てるデバイスを使ってリアルタイムに深層学習を利用するフィジカルコンピューティングという観点で見ると、未開発の分野がたくさんある。

本書は「電子工作×深層学習」をテーマとし、深層学習を電子工作で利用するための方法を紹介している。現在、深層学習を利用するデバイスの作成や深層学習の実社会への応用の期待は高い。しかし、深層学習の知識と電子回路の知識の二つを兼ね備えた技術者が不足しており、これらを自由自在に使いこなすことができずに困っている方も多いと思われる。

そこで本書では、どちらか一方の知識だけしか持ち合わせていない場合でも理解できるように、電子回路と深層学習の双方について丁寧に解説している。

## 法政大学出版局

▼許紀霖著 中島隆博・王前監訳 及川淳子・徐行・藤井嘉章訳『普遍的価値を求め―中国現代思想の新潮流』(四六判・三五八頁・三八〇〇円) 互いが平等に對話し、「共に享受する普遍性」としての「新天下主義」を提唱。叢書ユニベルシタス初の中国語からの翻訳書刊行!

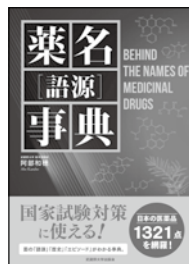
▼B・レヴィック著 マクリン富佐訳『アウグストゥス―虚像と実像』(四六判・五九六頁・六三〇〇円) 青年オクタウィアヌスが自らを神話化していった行程をあとづけ、帝政時代の礎がいかに築かれたのかを分析する歴史学の力作。

▼W・メニングハウス著 伊藤秀一訳『ダーウィン以後の美学―芸術の起源と機能の複合性』(四六判・三〇二頁・三六〇〇円) ダーウィンの精読を通じて、美の感覚についての進化論的仮説とカントラが論じた哲学的美学を架橋する。

▼日本アーレント研究会編『アーレント読本』(A5判・四三〇頁・三二〇〇円) ベテランから若手まで総勢五〇名の気鋭の執筆者が、主要なテーマ群を最新の視点で掘り下げる決定版の入門書。各著作の解題や略年譜も付す。

## 武蔵野大学出版会

▼阿部和徳著『薬名「語源」事典』(B5判・七六〇頁・六八〇〇円) その薬はなぜその名前がついたのか? 「語源」「歴史」「エピソード」から薬名の由来を解説。日本の医薬品1321点を網羅した、薬剤師国家試験対策にも最適な一冊。



▼佐藤佳弘著『脱! SNSのトラブル(増補版)』(四六判・一八四頁・一三五〇円) SNSは強力な情報発信ツールであるが、うかつな投稿によってトラブルが生じる場合がある。本書はSNSを正しく使うためのノウハウを、豊富なイラストを使用してやさしく解説している。



## 武蔵野美術大学出版局

▼小竹信節著『奴婢訓 武蔵野美術大学公演 2019』（B5判変型・六四頁・三二〇〇円）寺山修司主宰の演劇実験室●天井棧敷における後期寺山作品すべての舞台美術を担当した著者は、国内外の舞台美術を数多く手がけてきた。一九七八年アムステルダムでの初演以来、世界主要都市で上演されてきた『奴婢訓』。天井棧敷解散後、演劇実験室●万有引力が継続し、二〇一九年七月には小竹の空間演出学科退任記念として、本学美術館で六日間にわたり上演された。巻頭「ムサビで奴婢訓をつくる」では、その舞台裏を紹介。小竹の舞台美術は精密機械のような舞台装置のみならず、役者のメイクや衣裳、小道具までを含み、彼らは小竹の「自動人形」でもある。人形の詳細、各場の見せどころとともに、一二四分のDVDを付した記録集。

▼数前知子・gallery α M編『東京計画 2019』（B5判変型・一八四頁・一六七七円）寿山凡太郎、風間サチコ、Urban Research Group、ミルク倉庫+ココナッツ、中島晴矢、五組のアーティストによる展覧会記録。

## 明星大学出版部

▼樋口修資『第2版 教育の制度と経営 15講』（A5・二四〇頁・二〇〇〇円）憲法・教育基本法体制及び公教育制度を支える国と地方の教育行政の仕組みを踏まえて、学校制度と就学制度、学校の管理運営と組織編成、教職員の身分・服務と勤務管理や研修制度、学校の説明責任と地域参画の学校づくりなど教育の制度的・経営的事項の全体像を明らかにする。また、教育課程と生徒指導について取り上げるとともに、安全安心な学校生活を確保するための学校の保健安全管理の事項を取り上げる。

▼小川哲生・菱山覚一郎『第2版 教育方法の理論と実践』（A5・一六〇頁・一五〇〇円）教職を志す人々の参考書として、また教育現場に立つ先生の手がかりとして、教育方法の理論と実践を融合させ、かつ教育課程の導入書として本書は作られた。それは、まず教育方法という学問分野の概略の確認から始まり、教育方法の概念と歴史、基本原理に触れる。そして、具体的に授業を展開する方法や技術の育成に力点を置き、授業の創造または改善に役立つ内容を扱う。

## 早稲田大学出版部

▼加納貞彦著『創世記』に学ぶ（上）21世紀の共生』（A5判・四〇一頁・二二〇〇円）旧約聖書の『創世記』はだれにも開かれている。そこには、現代の人や社会がよりよくなるためのヒントが詰まっている。著者が半世紀以上にわたり『創世記』を読み続けた成果を伝える。本書は、特定の宗教・教義にかたよっていないのが特長である。また、聖書原文（聖書協会共同訳『聖書』二〇一八年一月に準拠）を丁寧にあげながら解説を加えているので、原典にいちいちあたらずに、これ一冊で『創世記』を深く理解できる。聖書を学びたい人、聖書に関心がある人におすすめの一冊。（下巻は今秋に刊行予定）

▼『早稲田新書』十二月一日創刊予定（各巻九〇〇円）大学出版部による新書シリーズ創刊は、大学に縁のある文化人の表現・研究活動の貴重な受け皿の一つであることから、『早稲田新書』を今冬にシリーズ創刊します。（創刊時は3冊を予定）



## 関東学院大学出版会

▼松田和憲著『増補改訂版 現代日本の「宣教の神学」研究』（A5判・七三六頁・五八〇〇円）ボツシユの宣教のパラダイム転換モデルに依拠しつつ、日本文化との対論の中で、聖書神学的、歴史神学的な考察を踏まえ、文脈化神学の線上に立つて、日本の二一世紀における新しい宣教の視座を呈示する。



▼安井聖著『アタナシオス神学における神論と救済論』（A5判・三四〇頁・三四〇〇円）ローマ帝国の迫害下にあったキリスト教会の立場は、紀元四世紀に大きく変わり、帝国の国教となっていた。この激動の時代に組織的指導者として教会を導いたアタナシオスは、同時に「三位一体論」の成立のために多大な影響を与えた思想的指導者でもあった。本書は、そんなアタナシオス神学の特質を解明する、わが国における稀有な著作である。

## 名古屋大学出版会

▼上原兼善著『黒船来航と琉球王国』（A5判・三七〇頁・六三〇〇円）ペリーはまず沖繩にやって来た。一九世紀、次々と現れる欧米列強の開国要求にさらされ、「鎖国」の防波堤とされた琉球の人々。いかに対応したのか。幕府や薩摩藩の姿勢は？ 浦賀中心では見えない、〈境域〉からの開国史。

▼ラン・ツヴァイゲンバーク著／若尾祐司他訳『ヒロシマーグローバルな記憶文化の形成』（A5判・四二四頁・四八〇〇円）原爆とホロコーストの交点へ。かつて「七五十年間は草木も生えない」と言われた都市は復興を遂げ、平和記念公園は「穏やかな」聖地と化した。いかにして？ 追悼・記念や観光、犠牲者言説などに注目し、ヒロシマの位置を問い直す。

▼櫻井康人著『十字軍国家の研究―エルサレム王国の構造』（A5判・七四四頁・八八〇〇円）キリスト教対イスラームを超えて、多様な人々からなる社会の全体像へ――。祈る人、戦う人、働く人が都市と農村で形づくる王国の姿を、ヨーロッパとの関係も含め、精緻な史料分析から初めて解明した画期的労作。

## 名古屋外国語大学出版会

▼川原浩司著『言語の構造―人間の言葉と動物のコトバ』（A5判・三〇八頁・六三〇〇円）動物との比較も踏まえた新鮮な言語理論。言語の仕組みとは何か？



▼松山洋平著『第二外国語で学ぶアラビア語入門』（B5判・一七〇頁・二八〇〇円）アラビア文字を大きく表記。初めての教科書にも最適な楽しい学び方。



▼梅垣昌子著『フォークナー、フォークナー』（仮題・四六判・二八〇頁予定）傑作短編群で辿るフォークナー大山脈。

▼石田聖子・白井史人編著『世界の映画』（仮題・A5判、近刊予定）映画を世界の観点と独自の作品論で徹底ガイド。

▼地田徹明・シンジルト編著『牧畜のエコロジー』（仮題・A5判、近刊予定）世界の牧畜社会の仕組みと共生の形態。

## 三重大学出版会

▼鈴鹿医療科学大学編『医療人の基礎知識 第3版』（B5判・一五六頁・一九〇〇円）本書における医療人とは、保健、医療、福祉分野に関わる全ての医療従事者のことである。高度化、複雑化する現代の医療現場では、異なる専門職からなるチーム医療の重要性が高まっている。円滑なチーム医療を行うためには、共通の基礎知識が必要となる。本書は、医療人向けの医療の基礎知識の教科書である。

▼鈴鹿医療科学大学編『医療人の底力実践 第3版』（B5判・一九四頁・一八〇〇円）本書は、チーム医療のための実践書である。専門の異なる各学科混成のグループ活動（実習や実験）を通して、連携・協力・コミュニケーションを学生自らが考え、能動的に学ぶことを目的としている。

医療は日々進歩しており、第2版出版からの3年間で新たに加わった事柄も含め、第3版は大幅改訂を行っている。

## 京都大学学術出版会

▼錦織宏・三好沙耶佳編『指導医のための医学教育―実践と科学の往復』（A5判・三九〇頁・三六〇〇円）全国30万人の医師はキャリアのなかで必ず一度は医師を育てる側に立つ。しかし医師としての教育指導の方法について学ぶことは稀だ。事例と多様な実践知を丁寧な解説、現場で悩める教育者たちへ贈る。

▼栗原麻子著『互酬性と古代民主制―アテナイ民衆法廷における「友愛」と「敵意」』（A5判・六五四頁・五八〇〇円）古代アテナイは訴訟社会であった。一見審議とは無関係にみえる弁論の内容から社会を支える相互扶助的ネットワークの存在とその本質を考察し、訴訟との密接な関係を明らかにする。民主制下の古代社会の構造を知るための必携書。

▼メアリ・ウルストンクラフト／清水和子・後藤浩子・梅垣千尋訳『人間の権利の擁護／娘達の教育について』（近代社会思想コレクション、四六判・三〇〇頁・三〇〇〇円）保守主義の雄、E・パークと対決し人民の統治者を選ぶ権利を主張した公開書簡と、フェミニズム思想の礎を築いたデビュー作を収録する。

## 大阪大学出版会

▼ヤン・デ・ホント、メンノ・フィツキ著、松野明久、菅原由美翻訳『A Narrow Bridge（一本の細い橋）美術でひもとくオランダと日本の交流史』（B5変判・二五六頁・六〇〇〇円）阿姆斯特ルダム国立美術館他所蔵の美術工芸品等を紹介しながら、日蘭関係史の流れを解説した書。

▼藤居岳人著『懷徳堂儒学の研究』（A5判・三八六頁・六一〇〇円）江戸時代中期の大阪に開学した漢学塾懷徳堂。その最盛期の中心人物であった中井竹山・履軒兄弟が展開した懷徳堂儒学の軌跡から朱子学との関係、懷徳堂儒学の思想的意義を明らかにする。

▼永田靖編著『漂流の演劇 維新派のパスペクティブ』（四六判・四八四頁・二八〇〇円）劇団「維新派」について、研究者や演劇人らによって多角的な視点から考察した書。演劇史や前衛芸術における立ち位置を分かりやすく概説するばかりではなく、その文学的価値や音楽や言語・身体論、都市論からも魅力に迫る。

## 関西大学出版部

▼森貴史著『〈現場〉のアイドル文化論―大学教授、ハロプロアイドルに逢いにゆく。』（四六判・三二〇頁・一七〇〇円）  
学生の卒論がきっかけでハロプロアイドルにハマった大学教授が、〈現場〉体験をもとに考察したアイドル文化論。稀有なサブカルチャー研究書として大注目。

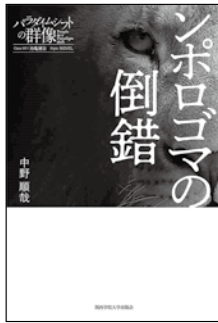


▼田中俊也著『大学での学び―その哲学と拡がり』（A5判・一七八頁・二〇〇円）  
大学生の学びを「学びの哲学」と捉え、問題解決、協同、創造、感動をキーワードに考察。ゼミで学んだ卒業生のその後の活動を、エビデンス・データとして紹介し、大学での学びがどう拡がっているかを検証した。



## 関西学院大学出版会

▼中野順哉著『ンポロゴマの倒錯』パラダイムシフトの群像01（四六判・二二四頁・一八〇〇円）  
厳格な母への反抗心、人の命がときに軽んじられた公共工事の現場……。二か月にわたる南半球をめぐる旅の中で自分の過去と向き合い、現代の都市生活者の精神に危惧を抱く「私」の物語。



▼岡崎宏樹著『バタイユからの社会学―至高性、交流、剥き出しの生』（四六判・三〇二頁・三六〇〇円）  
バタイユの思考から社会学理論を深化させる。  
▼金崎健太郎著『情報システム調達の政策学―マイナンパスシステム調達における実態と課題』（A5判・一六六頁・三四〇〇円）  
品質と価格の適正を担保する調達制度とは。

## 九州大学出版会

▼山縣大樹『帝国陸海軍の戦後史―その解体・再編と旧軍エリート』（A5判・二八六頁・四〇〇〇円）  
敗戦後も、復員、恩給制度の復活、再軍備などの問題などでその勢力を維持しようとした旧軍幹部たちの、GHQや日本政府との間の戦い。  
▼山本盤男『インドの税制改革―財政連邦主義の転換と財・サービス税』（A5判・一八八頁・三八〇〇円）  
二〇一六年のモディ首相によるインドの税制改革の背景と目的を分析する。

▼福元圭太『賦霊の自然哲学―フェヒナー、ヘッケル、ドリーシュ』（A5判・五三〇頁・八八〇〇円）  
世界を数量的に把握する自然科学から自然哲学へ。実証主義的自然科学者がネオ・ロマン主義的自然哲学者へと変貌する消息を追う。  
▼梶谷康介『大学生生活、大丈夫？―家族が読む、大学生のメンタルヘルズ講座』（四六判・二二二頁・一八〇〇円）  
心のバランスを失いがちな若者のメンタルヘルズ維持のため「大学生の家族」に必要な知識を分かりやすく提供。〈KUP医学ライブラリ2〉

(株) 太 洋 社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111
(株) 竹 尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617
(株) 東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田猿樂町1-2-1 TEL 03-3291-1771
(株)とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200
東光整版印刷(株)	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15 TEL 03-3632-0801
東洋美術印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-6-2 TEL 03-3265-9861
(株)トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288
図 書 印 刷 (株)	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36 TEL 03-5843-9700
(株)日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431
(株)日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-6256-7528
日本宣伝販売(株)	〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278 TEL 048-620-1021
(株) 博 報 堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191
(株) 平 文 社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301
(株)毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340
誠 製 本 (株)	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5 TEL 03-3967-3952
(株) 遊 文 舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325
(株)読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111

## 一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

---

- (株) 朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL 03-5540-7749
- 亜細亜印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154  
TEL 026-243-4858
- (株) アベル社 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408  
TEL 03-3235-1360
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20  
TEL 06-6494-1122
- (株) A L E 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階  
TEL 03-5652-8627
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5  
TEL 03-3563-7072
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE  
TEL 03-3261-8281
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6  
TEL 092-531-7102
- (株) 糸川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7  
TEL 03-3943-9811
- ㈱コムゾンインタラクティブジャパン 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F  
TEL 03-3525-8001
- 港北出版印刷(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7  
TEL 03-5466-2201
- 三松堂(株) 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階  
TEL 03-6823-5360
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8  
TEL 03-3803-3131
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-2-10 寺西ビル3F  
TEL 03-3261-5171
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1  
TEL 026-285-2300
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11  
TEL 03-3237-3601
- (株) 渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7  
TEL 026-244-7185
- (株) 眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2  
TEL 03-3462-1181
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342  
TEL 03-3269-3611
- (株) 精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9  
TEL 03-3293-3021
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766  
TEL 075-255-2288
- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20  
TEL 0952-71-8550
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル  
TEL 03-5402-1811
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16  
TEL 03-3474-2821
-

# 世界の カエル大図鑑

- ☆過去の類書を圧倒する最多レベル全世界 600 種
- ☆体長、分布、成体と幼体の生息場所、類似種を記載
- ☆項目は種類別に掲載。保全状況の最新データ完備
- ☆用語集、参考文献、索引も充実した決定版図鑑

ティム・ハリデイ著  
定価 [ 本体 10,000 円 + 税 ]  
A4 判変型上製・656 頁

原寸大  
オールカラー

[ 日本語版監修 ] 吉川夏彦・島田知彦・江頭幸士郎  
[ 日本語訳 ] 倉橋俊介・坂東智子・日野栄仁・世波貴子



## 柏書房創業 50 周年記念企画

初沢  
亜利  
Ar. Hetsuzane



東京、  
コロナ禍。  
COVID-19 pandemic in Tokyo.

## 決定的瞬間を 捉えた 142 点

「時間が必要なのだ。コロナ禍が収束した後、1-2年の歳月を超えたその向こうに、この写真集はかならず新しい光を纏って再登場することになる。」 [ 解説より ]

## 時系列で収録

写真 初沢亜利・解説 佐々木中

定価 [ 本体 1,800 円 + 税 ] A5 判変型並製・160 頁

# 東京、コロナ禍。

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13

TEL03-3830-1891 FAX03-3830-5337 <http://www.kashiwashobo.co.jp>



表紙写真:あるゼミの風景(コロナ禍で)  
撮影:阿部卓也

大学出版124号(2020年秋)  
2020年11月1日発行  
頒価100円(〒共)

発行所:一般社団法人 大学出版部協会  
ISSN 0913-3305  
振替00170-8-389131

〒102-0073  
東京都千代田区九段北1丁目14番13号  
メゾン萬六403号室  
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092  
E-mail: mail@ajup-net.com  
URL: http://www.ajup-net.com/

表紙デザイン:阿部卓也

※季刊「大学出版」は、大学出版部協会の  
公式HPでも、PDF版を全文無料で  
ダウンロードいただけます

## 一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覽

### ■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目  
北海道大学構内  
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

### ■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
弘前大学附属図書館内  
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

### ■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学構内  
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

### ■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120  
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

### ■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

### ■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

### ■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3  
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

### ■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

### ■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

### ■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

### ■ 東京電機大学出版局

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番  
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

### ■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3  
法政大学九段校舎内  
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

### ■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
武蔵野大学構内  
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

### ■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

### ■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

### ■ 早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12  
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

### ■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

### ■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1  
名古屋大学構内  
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

### ■ 名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57  
名古屋外国語大学内  
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

### ■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577  
三重大学総合研究棟Ⅱ3階  
TEL 059-232-1356 FAX 059-253-3095

### ■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69  
京都大学吉田南構内  
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

### ■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7  
大阪大学ウエストフロント  
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

### ■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

### ■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

### ■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34  
九州大学産学官連携イノベーションプラザ  
305  
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

### ■ 大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979